

海洋ゴミからウミガメを守る！ ウミガメ生息環境保全活動 i n 口永良部島

屋久島国立公園パークボランティアの会

鹿児島県

■活動の目的

北半球一のアカウミガメ産卵地である屋久島の永田いなか浜では、当団体や 0 法人、地元集落民など定期的に海岸漂着ゴミの清掃活動を行っているが、その対岸約 1 2km 先に位置する口永良部島(くちのえらぶじま)では人口が 100 人に満たず海岸清掃には手が回らない状況である。

また、両島とも産業廃棄物処理場が無いので処分費のみならず搬出費(口永良部島から屋久島へ、屋久島から鹿児島へ)も必要となるため多額の費用を要し、島民主体による実施は非常に困難である。

そこで、近年問題になっているウミガメの海洋プラスチックによる誤飲や事故を防ぐ事を主目的として、屋久島から口永良部島へ船で渡り継続的に海岸清掃を行う。

また、口永良部島の海はウミガメのみならず、豊かな生態系を有している。近年でも新種のエラブスミヤキが発見されるなど、魚類の研究においても重要な島である。海の生態系は、漁業、ダイビングをはじめとした観光業などの島民の生活も支えている。海岸の清掃活動を継続することでウミガメのみならず、こうした海の生態系を保全し、島民の生活を守ることもつなげていきたい。



永田いなか浜清掃作業のようす



黒潮海流との位置関係

■実施場所

活動の舞台は鹿児島県佐多岬から南へ約60kmの距離にある屋久島の北西約12kmにある面積35.8平方km、周囲49.7kmの人口約100名の小さな火山島、口永良部島である。幾つもの火山による幾度もの噴火活動によって成り立った独特な自然景観をもち、天然記念物であるエラブオオコウモリや、プランクトンが豊富な黒潮がもたらす多種多様な海洋生物など貴重な生態系をもっているため、口永良部島は全島が国立公園地域に指定されている。

この口永良部島の中で清掃活動の主な実施場所となっているのが「西之浜（にしのはま）」である。本島は火山島であるが故に海岸線は急峻な崖が多く、砂浜は島に2か所しかない。そのうちの一つは2015年の噴火によって利用不可能となったため、「西之浜」は現在島内で唯一の砂浜となっている。「西之浜」はウミガメの上陸が確認されているほか、天然記念物のムラサキオカヤドカリも生息している。また、島民の8割以上が暮らす本村地区からのアクセスもよく湾状になっているため地元では海水浴場としても使われており、子供たちを含めた島民の憩いの場である。

また今回は「西之湯温泉（にしのおんせん）」前の海岸（以降「西之湯温泉前」と表記）についても清掃を行った。「西之湯温泉前」は「西之浜」から400mほど近い距離にある海岸で、岩礁が多く、岩の隙間にロープやブイなどゴミが堆積しやすい環境になっている。また堆積したゴミは、台風や高潮によって周辺の海域へ押し流され、「西之浜」へ漂着するなど、間接的に「西之浜」のゴミの堆積や、周辺の海洋生物への悪影響を及ぼしている。



口永良部島



活動場所の位置関係

■活動までの流れ

まず清掃活動を行うにあたって「西之浜」および、近辺の海岸について現状把握を行った。当会会員で口永良部島在住の池添氏に御協力いただき、浜の調査を行った。また、現地出張の際に調査したゴミの堆積状況についての説明を受けた。

その結果、これまでの清掃活動の成果もあり、「西之浜」に堆積した海洋ゴミは着実に少なくなっているものの、近年の台風や大潮の影響で、新しいゴミが漂着し続けており、依然として浜を埋め尽くすほどのゴミの堆積があることが確認できた。さらに、「西之浜」から400mほどの距離にある「西之湯温泉前」の海岸に多くのゴミが漂着しており、このゴミが高波によって、「西之浜」まで押し流されるなど、間接的に「西之浜」のゴミの堆積や近辺のウミガメ含む海洋生物へ悪影響を与えていることがわかった。

西之浜近辺の現状を受け、今回の清掃では「西之浜」とその近辺の「西之湯温泉前」の海岸について清掃を行うこととした。「西之浜」についてはパークボランティアの人員のみでは作業が難しいため、本村集落総出で行う環境省マリンワーカー事業（環境省が行う国立・国定公園の海域適正管理強化事業）に協力する形で清掃を行った。「西之湯温泉前」については、地形が急斜面であることや岩礁による足場の悪さから、大人数での作業が難しいため、マリンワーカー事業と役割を分担して、屋久島パークボランティアが主体となって清掃することとした。

海洋ゴミの処理に関しては屋久島には処理施設が無く、鹿児島へ屋久島の運送会社を通じて送る事となるので、処理費用のみならず口永良部島から屋久島への輸送料および屋久島から鹿児島への輸送料も発生し、多額の費用となる。そのため屋久島の運送会社へ処理費用と輸送料の見積書を依頼し、目安とした。

見積内容は以下の通りである。

運送会社	屋久島海陸運輸株式会社
処理業者	株式会社ヤクヤクリサイクル 産業廃棄物中間処理業 鹿児島市 許可番号 8224047923 号 産業廃棄物収集運搬業 鹿児島県 許可番号 4601047923 号
輸送料	10,054円（税込）（口→鹿／1tフレコンバッグ1袋）：2023年 10,054円（税込）（口→鹿／1tフレコンバッグ1袋）：2024年
海岸清掃ゴミ処分費用	22,000円（税込／混載／1tフレコンバッグ1袋）：2023年 22,000円（税込／混載／1tフレコンバッグ1袋）：2024年

■活動実績

活動実績は以下の通りである。

活動場所：「西之湯温泉前」

活動日：2024年10月18日（金） 10:10～11:45

参加人数：13名（島民1名 屋久島パークボランティア8名 環境省職員4名）

収集量：1tフレコンバッグ10袋

活動概要：島民1名と合同で清掃活動を行った。岩の隙間に漁網やロープが絡まっていたので、ロープカッターで切断しながら回収した。小さめのゴミは屋久島町のゴミ袋を用いて分別しながら拾い、ゴミ袋に入りきらないものとは別にフレコンバッグに入れた。ゴミは軽トラックにフレコンバッグを載せてから詰め、海岸と港をピストン輸送した。軽トラックは当会からは1台、島民から1台の計2台で作業を行った。道路から海岸までは急な斜面となっており、海岸ゴミはリレー形式で引き上げて、軽トラックに積み込んだ。

活動場所：「西之浜」

活動日：2024年10月19日（土） 8:00～10:30

参加人数：54名（島民42名 屋久島パークボランティア8名 環境省職員4名）

収集量：1tフレコンバッグ30袋

活動概要：島民と合同で清掃活動を行った。小さめのゴミは屋久島町のゴミ袋を用いて分別しながら拾い、ゴミ袋に入りきらないものとは別にフレコンバッグに入れた。また砂に紛れた細かいプラスチック片などは今回の助成金で購入したふるいを用いて回収した。ゴミは軽トラックにフレコンバッグを載せてから詰め、浜と港をピストン輸送した。軽トラックは当会からは2台、島民からは4台の計6台で輸送作業にあたった。地元業者が爪付の油圧ショベルを持ち込み、詰め込み等の作業にあたった。

今回の清掃で多くのゴミを回収することができたものの、堆積ゴミは依然として多く今後も継続した活動が必要であると感じた。さらに、砂に紛れたプラスチック片が多く取り残されており、継続的な清掃の必要性を強く感じた。

■活動写真

【西之湯温泉前】



多くのゴミが漂着した西之湯温泉前の海岸（西之湯温泉前 作業前1）



多くのゴミが漂着した西之湯温泉前の海岸（西之湯温泉前 作業前2）

■活動写真



岩礁の隙間にゴミが入り込んでいる（西之湯温泉前 作業中）



ゴミ袋に入りきれない大きさのゴミも多い（西之湯温泉前 作業中）

■活動写真



急斜面と足場の悪さから島民も清掃がしにくい海岸となっている（西之湯温泉前 作業中）



リレー形式でゴミを引き上げた（西之湯温泉前 作業中）

■活動写真



リレー形式でゴミを引き上げた（西之湯温泉前 作業中）



搬出したゴミをフレコンバッグに詰めた（西之湯温泉前 作業中）

■活動写真



今回の清掃で浜の景観が大きく回復した（西之湯温泉前 作業後1）



今回の清掃で浜の景観が大きく回復した（西之湯温泉前 作業後2）

■活動写真
【西之浜】



継続した活動の成果で徐々に砂浜が景観を取り戻してきていた（西之浜 作業前1）



岩場には多くのゴミが堆積していた（西之浜 作業前2）

■活動写真



浜を埋め尽くすほどのゴミが取り残されていた（西之浜 作業中）



岩に絡まった漁網などはロープカッターで細かく切断した（西之浜 作業中）

■活動写真



切断したロープは袋にまとめた（西之浜 作業中）



フレコンバッグにまとめたゴミを搬出した（西之浜 作業中）

■活動写真



人力で移動が難しいゴミは重機で搬出した（西之浜 作業中）



砂に紛れた細かいゴミはフルイを用いて回収した（西之浜 作業中）

■活動写真



砂に細かいプラスチック片が多く混じっていた (西之浜 作業中)



浜に暮らしているムラサキオカヤドカリ (西之浜 作業中)

■活動写真



砂浜の大型ゴミはかなりの量を回収することができた（西之浜 作業後2）



岩場には未だに多くのゴミが堆積し浜を埋め尽くしている（西之浜 作業後2）